

石綿被害者ら 支援へ準備会

電話相談きょう開始

県労組会議や県内の環境問題の専門家らが14日に長野市の県庁で記者会見し、アスベスト(石綿)による健康被害を受けた人や家族を支援する「県アスベスト対策センター準備会」を発足して15日に電話相談の受け付けを始めると発表した。26日には長野市で相談会を予定している。

されたが、申請までの資料や情報集めは個人では大変だった、と説明した。

会見には、26日の相談会を共催する「中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会(東京)の関係者らも出席した。電話相談(☎026・234・2116)は、15日以降の平日午前9時〜午後5時と相談会当日の26日に受け付ける。

相談会は無料で、26日午前10時〜午後4時に長野市県町の県労働会館で開く。アスベストを扱う事業所で働いていた人や近隣に住んだことがある人、その家族などが対象。「患者と家族の会」の専門相談員4人が健康被害や労災申請の方法などの相談に応じ、必要な場合は医師や弁護士などに紹介する。

常設相談窓口設置へ

アスベスト 患者支援で県内初

アスベスト(石綿)患者の支援団体は14日、県庁で会見を開き、常設の電話相談窓口を県内に初めて設置すると発表した。労災認定はハードルが高く手続きも煩雑なことから、遺族らは申請に苦労している。電話相談だけでなく、専門家による相談会も定期的に開き、態勢の充実を図る。



県内に電話相談窓口が設置されることを歓迎する大原さん(左)=県庁で

支援団体の「中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会東海支部」(名古屋)が県労組会議と連携して相談に

応じる。必要に応じて、労働基準監督署や病院に付き添ったり、労災認定に必要な職歴の確認を手伝ったりする。二十六日には専門家による面接の相談会を長野市の県労働会館で開く。

患者と家族の会東海支部の成田博厚さん(四七)は会見で「地方の患者は情報過疎に陥り、孤立しがち。少しでも多くの患者の救済につなげたい」と話した。父親が建設現場で石綿を吸引して中皮腫で亡くなった塩尻市の大原慎一郎さん(四四)も会見に出席し、「労災認定では、過去に石綿を使った業務に従事したことを証明するのが大変だった。患者のための相談窓口がようやく

でき、意義があると思う」と語った。電話相談は十五日から、平日午前九時〜午後五時に受け付け。☎県労組会議☎026(234)2116 (武藤周吉)